

「将来日本のために働きたく政治家になりたいのですが？」

平成 27 年 9 月 1 日

●もりもりさんからの質問

現在私は学生でして将来は直接的に日本の為に働きたいと考え政治家になりたいと思っています。現役国会議員の西田先生としては最終的に国会議員になるのに最良の道はどのようなものだと思いますか？教えてください。

●西田昌司の答え

日本の為に働きたい、という志は非常に有難いですし、その気持ちを大切にして頂きたいのですが、国会議員になることを第一の目標にはされない方がよろしいかと思います。

国会での議論も大事なことではあります。しかし、国会議員になるには、まず自分が何をすべきかという明確なビジョン・思想を持たなければなりませんし、様々な問題に対してしっかりと自分の考えを持てるようバックボーンを築かなければなりません。また、そのためには様々な経験が必要です。

私の父は京都府議会議員をしていましたが、平成元年に参議院議員に立候補して当選しました。翌年、父の抜けた議席を決める京都府議会議員の補欠選挙があり、後継者は決まっていたのですが、選挙の間近にその方が諸般の事情により辞退されたので、急遽私が立候補することになりました。当時、私は新米の税理士でしたし、政治家になるつもりは全くありませんでしたが、候補者が決まらずに補欠選挙を不戦敗してしまうのは父が空けた穴だけに絶対に許されませんでした。この選挙で私は当選したのですが、まさに青天の霹靂のごとく、私は政治の世界に投げ込まれたのです。

京都府議会議員になってからは地方の側からゆっくりと国政を眺めていましたが、少し離れた場所から戦後政治と改革の混乱ぶりを冷静に見られたのは、現在の私の財産になっています。第1次安倍内閣の時代に参議院議員であった父が引退することになりましたが、安倍総理と私の政治信条が合致していることもあって私は自民党の予備選考で候補者となり、平成19年の参議院議員選挙において私は京都府選挙区から自民党公認で出馬して参議院議員になりました。

このように、私は時代に呼ばれて偶然に政治家になったのです。民主党政権時代は彼らの出鱈目を糺すべく、政権批判の急先鋒として、国会においては彼らを追及する役として期待もされましたし、今も様々なところから依頼された講演を通じて発信に務めたりしています。今回の質問者のもりもりさんには、「いかに政治家になるか」を考えるのではなく、「いかに政治家として時代に呼ばれるような人間になるか」を考えて頂きたいのです。

好きな人と結婚したくても、相手が自分のことを好きになってくれなければ結婚はできません。幸せな結婚をしたいのであれば、いかに相手に好かれるような男になるかを考えなければなりません。同じように国会議員になりたいのであれば、いかに時代に呼ばれるような人間になるかが問われるのです。そのためには、しっかりとした職業について自立した生活ができなければならないのはもちろんですし、様々な経験を積んで、様々な素養を身に付けなければなりません。そのように努力して確固とした自分ができあがれば、時代はあなたを放ってはおきません。その結果、国会議員になることもあるかもしれない、くらいに構えたらどうでしょうか。地道にこつこつと真面目に頑張って頂きたいと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>